

## 講義レジュメ

講 師 小川 義和

内容・テーマ

多様な主体との連携による教育普及活動

期 日 令和元年 12 月 12 日

### 1. 連携における3C (Content, Community, Context) の共有

新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が強調され、子供たちが未来を切り拓く資質・能力を社会と共有し、連携して育てていくことが重視されている。社会教育施設である博物館等に対する学習資源としての期待が高まっている。連携することが目的ではなく、連携の理念と目的を共有することが重要である。①活用できる資源, ②つなぐ仕組み・手立て, ③連携の理念と課題, の共有が大切。

### 2. 事例研究

「地域資源」を「どのように」組み合わせて、連携しているか、「つなぐ仕組み」や共有できる「理念」「目的」は何か, などの視点を持って事例を考察する。林勇介氏(湧別町ふるさと館JRY・郷土館)から, 学芸員と社会教育主事及び司書との連携・協働による「ふるさと講座」「ふるさとから学ぶ会」の活動及び学芸員と教員との連携・協働により教科横断型授業「郷土と土器」等の実践事例についてご紹介いただく。

### 3. 博学連携から博物館機能の拡張へ

これからの博物館は、「施設としての博物館機能に加え、博物館と博物館を取り巻く環境からなる文化空間において、多様な主体と連携・協働する機能を併せ持つ機関である。」と考え、地域にある社会的リソースと学校をつなぐことで、博物館の機能が拡張していく。各博物館が持つ特徴的な資源と地域の多様な主体をつなぎ、地域全体として博物館力を高めていくことが、変化の激しい社会における生き残り、発展につながる。

自己完結型から他の機関との連携・協働による博物館活動の展開は、「開かれた発信する博物館」の機能強化になる。

### 4. 地域の知をつなぐ人材としての学芸員

各地域で「学芸員の専門性」を生かして何を実現するのか, 何をを目指すのか。

- ・教育活動は何のために～館のミッションを実現するために。
- ・学校連携や教員研修は何のために～子供たちの自由選択学習と生涯学習のきっかけ。

これからの学芸員は、資料の収集保管, 調査研究, 展示・教育とともに、地域の知をつなぐ役割がますます重要になってきている。

---

#### 〔参考文献〕

小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」ジダイ社, 2019